

平成30年（2018年）9月6日

山形大学「基盤力テスト」分析結果のご報告（第1回）

【本件のポイント】

- 平成29年度入学生について、1年次および2年次の基盤力テストの結果を比較分析し、速報値としてまとめた
- 分析の結果、一部のカリキュラムの学生については平均能力値が有意に向上、あるいは低下したことが明らかになった
- 能力値の推移は、いずれも本学のカリキュラムの目的や体系と整合しており、今後、本学の教育効果を検証するための基礎データとして活用できる



【概要】

山形大学では、基盤力テストを平成29年度より毎年4月に実施し、学生の学習達成度を可視化することを試みています。このたび、平成29年度入学生について、1年次および2年次の実施結果の比較分析を行い、1年間の能力値の推移を速報値としてまとめました。分析の結果、化学を専門とする一部のカリキュラムの学生については化学の平均能力値が有意に向上した一方、数学を専門としない一部のカリキュラムの学生については数学の平均能力値が有意に低下したことが明らかになりました。能力値の推移は、いずれも本学のカリキュラムの目的や体系と整合しており、今後、本学の教育効果を検証するための基礎データとして活用していきます。

【背景・目的】

これまで学習者の人間力などを評価する方法は、学生の主観によるアンケートなど間接的な評価方法が中心であり、直接的な方法はあまり見られませんでした。間接的な評価方法では、いま国内外で強く要請されている教育の質保証に十分対応できないという問題があります。そこで山形大学では、直接的な方法による全学共通テスト「基盤力テスト」を独自に開発し、平成29年度より毎年4月に実施しています。これにより、本学の学生の学習達成度を直接測定することで、学士課程教育の効果の可視化に取り組んでいます。

【分析結果の一例（速報値）】

化学	平均能力値（1年次）	平均能力値（2年次）	平均能力値の差
化学が専門であるカリキュラム A	-0.22	0.50	0.72
数学	平均能力値（1年次）	平均能力値（2年次）	平均能力値の差
数学が専門でないカリキュラム B	0.48	0.06	-0.42

上表において、化学を専門とするカリキュラム A の学生については、1年次の化学の平均能力値が -0.22、2年次の化学の平均能力値が 0.50 となり、1年間で平均能力値が 0.72 向上したことがわかりました（この結果は 5% 水準で有意であり、効果量は大です）。一方、数学を専門としないカリキュラム B の学生については、1年次の数学の平均能力値が 0.48、2年次の数学の平均能力値が 0.06 となり、1年間で平均能力値が 0.42 低下したことがわかりました（この結果は 5% 水準で有意であり、効果量は中です）。能力値の推移は、いずれも本学のカリキュラムの目的や体系と整合しており、基盤力テストの妥当性が裏付けられたと言えます。今後は、学生の能力値の変化と履修歴および学習習慣の関係などを分析し、学士課程教育の改善を検討するための基礎データとして活用していきます。